

日中学生会議

1986年に設立された日中学生会議は、今年30周年を迎えます。毎年8月に日中両国の学生が一堂に会し、約2週間にわたる徹底的な議論や共同生活を通して、日中友好に向けた相互理解を深めるために活動しています。

日中両委員長の言葉

35期日中学生会議の参加者へ

もし何かが日中間の交流を妨げている海であるのなら、JCSCはそれを乗り越えるための橋であろう。この言葉を見る前に、みなさんはどれ位私たちについて知っていますか？言語？歴史？文化？生活習慣？一番重要である、私達が何を考えているかを知っていますか？私達も皆さんのが何を考えているかわかりません。このひと夏で、15回の昼夜の間、62名の青年。中国三大都市に集い、思想と知識のぶつかりで生まれる火“華”で日中青年間の相互理解に新たな歴史の1ページと一緒に刻みませんか？みなさん、ようこそ中国へ、この地でみなさんと新たな軌跡を築くために、中国実行員一同お待ちしております。

——第35期日中学生会議中国側実行委員長 張皓博

大家好！

35期で日中学生会議は設立30周年を迎えます。何かと話題な中国、古代では“兄弟之縛”でありながら、現代は複雑な関係にある隣国。私達はどれ位この国を知っているのでしょうか？35期は中国開催です。日本のみなさんは是非直で中国に触れ、現地学生の声を聞いて、学生として日中関係を考え、今までと一新した“日中”を見つけていただきたいです。中国に興味がある方も、興味がない方も、現在一番話題性のある、そして日本と切っても切れない隣国“中国”と一緒に経験してみませんか？ご参加お待ちしております！

——第35期日中学生会議日本側実行委員長 王萌子

募集要項

開催期間 2016年8月7日～25日

※直前合宿・直後合宿を含む

開催地 北京・上海・広州

募集人数 24人

応募資格 大学生、大学院生、短大生、専門学生（留学生を含む）
※場合によっては高校生も可

使用言語 日本語、中国語、英語
(分科会により異なります)

選考

<一次選考> 書類審査

3/22～4/19の間 公式HP「応募」ページにて公開される応募フォーマットから応募して下さい。

<二次選考> 個人面接審査

一次選考合格者に対して実施いたします。

東京選考日程：4月29日～5月1日

大阪選考日程：4月29日、30日

※遠隔地にお住いの方などには別途対応させていただきますのでお問合せ下さい。

選考発表 <一次選考> 2016年4月22日

<二次選考> 2016年5月4日

参加費 15万円

参加費には本会議中の航空費・宿泊費・移動費・食費を含みます。自宅からの交通費は一部自己負担です。賛助団体の支援により、参加者の負担は大幅に軽減されています。また、活動終了後に残金が発生した場合、返金の可能性があります。

お問い合わせ

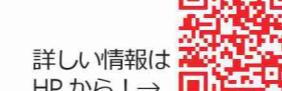
日中学生会議実行委員会

email: 35thjcsc@gmail.com

公式HP <http://jcsc.jp>

Twitter @jcsc_japan

Facebook 日中学生会議



詳しい情報は

HPから！→

JCSC



第35回 日中学生会議

Japan-China Student Conference

『百聞』を論じ『一見』して気付く夏
～個から広がる相互理解の輪～

本会議 8/7～8/25

(直前合宿・直後合宿を含む)

応募締切
4/19

開催地：
北京・上海・広州

主催：日中学生会議実行委員会、(財)日中文化交流財団
後援：日本国駐中華人民共和国大使館、日本国広州領事館、
日本国上海領事館、日本国文部科学省、日本国外務省(一部申請中)
協力：(財)日中友好会館、(財)日本中国友好協会、
(社)日本外交協会、(社)日中協会、OB・OGの皆さま
助成：(財)MRAハウス、(財)国際交流基金、(財)平和中島財団、
(財)双日国際交流財団、(財)三菱UFJ国際交流財団(一部申請中)

会議の流れ

5/14, 15
顔合わせ合宿
(大阪)

勉強会

6/18, 19
中間合宿
(東京)

分科会活動

8/7, 8
直前合宿
(東京)

8/9～23
本会議
(北京・上海・広州)

8/24, 25
直後合宿
(広州)

事前活動

・分科会

参加者は6つの分科会のいずれかに属す。論点を設定した後、メンバーとのSkypeミーティングやフィールドワークを通して専門的な知識を得る。

・勉強会

分科会における専門知識だけでなく、日中関係や議論に必要な基礎知識を深める。

本会議

・分科会

約3か月の事前準備を活かして、中国の学生と2週間にわたり議論を行い相互理解をはかる。最終日にプレゼン形式で成果を報告する。

・フィールドワーク

分科会ごとに学習内容に沿ったフィールドワークを行い、貴重な知識を得て議論に役立てる。

・文化交流

出し物を用意し、互いの文化を表現する。日本側中国側共同の出し物をすることも。

・観光

直後合宿

本会議での振り返りを行い、参加者各自で本会議での経験を踏まえた決意を固める。

分科会

経済と社会構造分科会

日本企業の中国に対する関心は高く、日本と中国の経済的関係はまだこれからも高まって行くだろう。友好関係構築が不可欠である経済面において、互いに相手国に対してどのような協力を求めているのかを考察し議論したい。

歴史背景と価値観の相違分科会

歴史は純粹な「過去」ではない。歴史とは、記録され、前後関係を踏まえ再構築され、そして解釈する一連の学び、いわば国家のアイデンティティーだ。歴史背景が国交や国民感情において障害を生んでいる今日、自由に議論することに大きな価値があると考える。

持続可能な開発と環境保全分科会

急速な経済発展の裏側で環境破壊が引き起こされている中国。また日本にも環境を犠牲に開発を進めた歴史がある。この開発と環境問題という切り離せない問題に対して、私達が今実際何をすることが出来るのか何を取り組むべきか、具体的に話し合っていきたい。

安全保障と平和共存分科会

安全保障に関する問題は複雑かつ不透明である。国際社会の変容に伴い、日中関係をどう再評価すべきか？平和と安定のために、日本はどのような機能を果たすべきか？また中国とともに協力し、構築すべきレジームとは何かを模索していく。

文化の影響と運用可能性分科会

文化作品からは、その時代の社会の流れについて多くのことを読み取ることができる。また国家の個性やブランドを形成し、海外の人々を引き付ける大きな魅力もある。クール・ジャパンが唱えられる今、文化の価値と運用の方策について考える。

格差とマイノリティ分科会

両国のみならず、国際社会が突きつけられている課題といえる。しばしば偏見や差別の対象になり、経済的に弱者としての立場を強いられる社会的少数派を、私たちはどのように理解し、尊重する形で共生できる社会的基盤を作り上げていけるだろうか。